

「服

薬ケア」という言葉に込められている心は、真の意味で患者さんのためになる医療を目指すということです。自信をもって患者さんの前に立てるような薬剤師になるためには、価値のある効率的な勉強の仕方をつけることが大切です。具体的には薬理作用だけでなく「生理・病理・薬理」をトータルに学ぶことです。そうすることで体の中で何が起きているのかをイメージできるようになり、自信をもって患者さんの前に立つことができます。しかし、多くの薬剤師は効率的に服薬指導で使える知識を知りたいと思ってしまいます。知識がある、ないではなく、患者さんに正しく使える知識をもち、自信に満ちた「ホンモノの薬剤師」を目指しましょう。

服薬ケアの心

岡村祐聡先生  
服薬ケア研究所・所長



学生の皆さんにとって、まずは国家試験に合格することが目標だと思いますが、ただ単に丸覚えするのではなく、体の中でどうなっているのか、想像しながら理解を深めてください。やがて勉強が楽しくてしょうがなくなりますよ。

# 真の患者のための医療を求めて

## ～服薬ケア研究会第10回大会～

本誌にて好評連載中の「プロブレムの見つけ方」の執筆者でもある、服薬ケア研究所の岡村祐聡先生が会頭を務めた「第10回服薬ケア研究会」が2020年9月21日(月)～22日(火)にかけて開催されました。本研究会は、薬剤師の医療とは何かを常に研究し、薬剤師の担うべき医療を質高く実践するための理論と方法を普及しようと日々、活動されています。今回は本研究会で特に興味深かった2つの演題について、薬学生へのメッセージも交えてご紹介します。



服薬ケア研究会の  
HPはコチラ！



狭間研至先生

ファルメディコ株式会社  
代表取締役社長/  
医師・医学博士

私共の薬局スタッフも患者さん対応の際、必要に応じて青本から学んだことを今でも見返します。国家試験や大学での勉強は社会に出てからも生きることばかりです。患者さんのためになると考えながら、積極的に前へ進んでみてください。



新型コロナウイルス感染症がもたらす

新

型コロナウイルス感染症は、日々の薬局業務にも大きな影響をもたらしました。例えば、これまで門前の調剤薬局では、医療機関を受診し、処方箋を持った患者さんをスムーズに自薬局に導き、正しく薬を処方することが仕事でした。しかし、コロナ禍では密を防ぐことや不要不急な外出を控えるといった患者さんの行動の変化により、このモデルが成立しなくなりました。今後もWith Coronaの時代が続くことが予想される中で、在宅療養支援へのシフトや医療機関を敬遠する患者さんのセルフメディケーションへの対応など、抜本的な業務改革を迫られている局面にきています。薬剤師の未来を見据え、日々の社会の動きに注意してみましょう。

薬局薬剤師業務の変化